



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 日水製薬株式会社

コード番号 4550

URL <https://www.nissui-pharm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 小野 徳哉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 谷津 精一 (TEL) 03-5846-5611

四半期報告書提出予定日 平成31年2月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績 (平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	9,234	1.0	940	△5.2	990	△7.9	463	△46.9
30年3月期第3四半期	9,143	△3.9	991	△15.4	1,074	△28.2	872	△13.5

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 399百万円(△57.6%) 30年3月期第3四半期 943百万円(△41.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	20.70	ー
30年3月期第3四半期	38.98	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	35,152	32,478	92.4
30年3月期	35,809	32,974	92.1

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 32,478百万円 30年3月期 32,974百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	ー	20.00	ー	20.00	40.00
31年3月期	ー	20.00	ー		
31年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	13,000	5.4	1,550	8.6	1,570	2.3	860	△26.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	22,547,140株	30年3月期	22,547,140株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	152,384株	30年3月期	151,997株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	22,394,907株	30年3月期3Q	22,395,283株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

体外診断用医薬品の国内市場は、種々の検査法の普及により、ここ数年ほぼ横ばいで推移しております。また、平成30年度の診療報酬改定は、全体ではプラスの改定が行われましたが、政府による医療費抑制策の基調は変わらず、厳しい環境が続いております。再生医療分野は、新たに医師主導治験が多数開始され、再生医療等製品の開発活動が活発になっております。

当社グループでは、経営方針として「長期的に持続的成長をする企業」を掲げております。既存事業の推進と新規事業育成による新たな価値の創出を目指し、中期経営計画の3年目(最終年)に際し、引き続き次のような経営戦略に取り組んでおります。

- 将来性・・・成長分野への新技術開発のための開発的投資(資本参加などのM&A・提携・委託)
- 拡張性・・・市場拡大のための戦略的投資(市場開拓・製品及びサービス開発)
- 収益性・・・製造設備強化への効率的投資(業務品質向上・事業ポートフォリオ適正化)

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ90百万円(1.0%)増加し92億34百万円となりました。利益面におきましては、営業利益は前年同期に比べ51百万円(5.2%)減少し9億40百万円、経常利益は前年同期に比べ84百万円(7.9%)減少し9億90百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ4億9百万円(46.9%)減少し4億63百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の状況は、概ね次のとおりです。

#### <診断薬事業>

売上高は前年同期に比べ4億78百万円(6.8%)増加し75億39百万円、営業利益は前年同期に比べ91百万円(7.0%)増加し13億95百万円となりました。

当セグメントの国内販売は、基幹病院や検査センターへの検査機器設置活動、製薬企業や食品企業への品質検査試薬の営業活動に注力しました。製品群別では、測定用検査機器が順調に納入されたことにより、病院向けに販売している深在性真菌症の補助診断キット「ファンギテック®GテストES」の売上高が前年同期に比べ9割増加し、同様に細菌・ウイルス中の核酸分子の増幅によって診断の補助を行うキット「TRC Ready®」の売上高が前年同期に比べ2倍に増加しました。製薬・食品検査関係では、再生医療、食品検査市場での認知度の高まりにより、遺伝子検出試薬(マイコプラズマ遺伝子検出キット「MycFinder」、腸管系病原菌遺伝子検出試薬キット ※株式会社島津製作所等)の売上高がほぼ当年度計画通りに推移いたしました。バイオメリュー・ジャパン株式会社から導入した食品検査向けの微生物迅速検査製品の販売についても引き続き、国内食品企業へ積極的なプロモーション活動を行い、より一層の売上を獲得してまいります。海外販売は、アジア、インド、南米地域の取扱代理店の増加により、菌数測定用乾式簡易培地「Compactdry®」の売上高が前年同期に比べ4割超増加しました。

#### <医薬事業>

売上高は前年同期に比べ2億3百万円(10.7%)減少し16億95百万円、営業利益は前年同期に比べ1億39百万円(42.6%)減少し1億88百万円となりました。

当セグメントは、連結子会社の日水製薬医薬品販売株式会社において、引き続き健康未来創造研究会への新規会員店の拡充、プライベートブランド向け新製品の提案に注力いたしました。

上記の営業利益は、各事業に配賦できない支援部門に係る費用等6億43百万円が控除されておられません。

<研究開発活動等>

新たなビジネス創出の機会として、将来有望と考えられる研究プロジェクトや独創的かつ萌芽的なアイデアなどを早期に発掘し、実用化に通じる創成を目指す日水製薬オープンイノベーションプログラム「NeyeS」(エヌアイズ)の公募を10月1日より開始し、数多くの研究機関より応募を頂きました。応募されたテーマに対して、当社研究課題とのマッチング、研究内容の独創性や有用性・研究計画の実現性等を判断して、採択案件を決定いたします。「NeyeS」の活動を通じて、再生医療関連技術、細胞培養関連シーズおよび検査・検出技術などテーマとして、アカデミックな基礎研究から臨床研究および検査・情報処理まで斬新でユニークなアイデアやノウハウ、将来的な医療に役立つ芽を支援・探索してまいります。

臨床検査市場向けにNG Biotech(本社:Guipry, France、CEO:Milovan Stankov Pugès)製の、腸内細菌科細菌が産生する主要なカルバペネマーゼを簡易・迅速に検出する研究用試薬「NG-Test CARBA5」に関して、12月13日より販売を開始しました。世界的に大きな問題となっているカルバペネム系抗菌薬に対する耐性菌について、本製品の販売を通じて臨床検査の研究活動を支援してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6億57百万円(1.8%)減少し351億52百万円となりました。これは主に現金及び預金7億63百万円によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1億60百万円(5.7%)減少し26億73百万円となりました。主な増加は繰延税金負債1億90百万円によるもので、主な減少は未払法人税等2億16百万円、賞与引当金1億47百万円によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ4億96百万円(1.5%)減少し324億78百万円となりました。

この結果、自己資本比率は92.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、現時点では平成30年10月30日に公表した業績予想から変更はありません。なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,565	6,801
受取手形及び売掛金	3,214	3,209
有価証券	—	501
商品及び製品	1,882	1,795
仕掛品	371	315
原材料及び貯蔵品	873	1,012
関係会社預け金	14,964	14,982
その他	144	135
貸倒引当金	△47	△33
流動資産合計	28,966	28,721
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,487	1,462
機械装置及び運搬具(純額)	362	341
土地	1,752	1,752
リース資産(純額)	54	39
建設仮勘定	70	120
その他(純額)	164	186
有形固定資産合計	3,893	3,902
無形固定資産		
ソフトウェア	38	62
リース資産	43	32
ソフトウェア仮勘定	23	—
その他	6	6
無形固定資産合計	111	101
投資その他の資産		
投資有価証券	2,513	2,161
繰延税金資産	61	—
その他	300	299
貸倒引当金	△39	△33
投資その他の資産合計	2,836	2,427
固定資産合計	6,842	6,431
資産合計	35,809	35,152

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,458	1,401
リース債務	37	37
未払法人税等	246	30
未払消費税等	—	58
賞与引当金	196	48
役員賞与引当金	17	8
歩戻引当金	2	10
その他	420	463
流動負債合計	2,380	2,059
固定負債		
退職給付に係る負債	2	2
リース債務	68	40
繰延税金負債	—	190
長期預り保証金	372	372
その他	10	8
固定負債合計	454	614
負債合計	2,834	2,673
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,449	4,449
資本剰余金	5,378	5,378
利益剰余金	23,071	22,638
自己株式	△99	△100
株主資本合計	32,799	32,367
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	174	111
その他の包括利益累計額合計	174	111
純資産合計	32,974	32,478
負債純資産合計	35,809	35,152

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	9,143	9,234
売上原価	4,788	4,974
売上総利益	4,355	4,259
販売費及び一般管理費	3,364	3,319
営業利益	991	940
営業外収益		
受取利息	28	31
受取配当金	22	13
デリバティブ評価益	5	—
受取補償金	10	—
その他	23	23
営業外収益合計	89	68
営業外費用		
支払利息	0	0
デリバティブ評価損	—	14
為替差損	5	1
その他	0	2
営業外費用合計	6	17
経常利益	1,074	990
特別利益		
関係会社株式売却益	161	—
特別利益合計	161	—
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産処分損	3	0
投資有価証券評価損	—	0
特別損失合計	3	1
税金等調整前四半期純利益	1,233	988
法人税、住民税及び事業税	298	244
法人税等調整額	62	280
法人税等合計	360	525
四半期純利益	872	463
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	872	463



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	872	463
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	70	△63
その他の包括利益合計	70	△63
四半期包括利益	943	399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	943	399
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	診断薬事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	7,060	1,898	184	9,143
セグメント利益	1,303	327	21	1,653

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,653
全社費用(注)	△662
四半期連結損益計算書の営業利益	991

(注) 全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	診断薬事業	医薬事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	7,539	1,695	9,234
セグメント利益	1,395	188	1,583

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,583
全社費用(注)	△643
四半期連結損益計算書の営業利益	940

(注) 全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「化粧品事業」につきましては、平成29年7月1日付で、化粧品事業を営んでいたニッセイファルマ・コスメティックス株式会社の全株式を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを廃止しております。